

【学生によるESD活動支援】
奈良市立大安寺西小学校 野外活動 支援報告書

国語教育専修初等教育学部 1 回生 西條秀哉

1. 実施日 平成 30 年 5 月 29 日 (火)
2. 場 所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 奈良市立大安寺西小学校 第 5 学年児童 7 8 名、引率教員 2 名他
谷垣徹、西條秀哉、後藤旭、林祐希 (奈良教育大学ユネスコクラブ)
4. 活動支援内容

今回は、キャンプファイヤーの火の準備・管理をするファイヤーキーパーとして大安寺西小学校での野外活動支援をさせていただくことになった。具体的な活動内容として、事前準備では木を組み立てて薪を製作し、トーチ棒に灯油をつけた。キャンプファイヤーが始まってからは火の大きさや明るさの調整をし、子ども達が不用意に火に近づかないように声掛けや注意をした。

今回の野外活動支援で私たちは、ファイヤーキーパーの技術と役割の 2 点を学んだ。

一点目の技術的な面においては、木を切る時は木を抑える方の手に軍手を二重にしてはめることや、灯油をトーチ棒につけるときは空のバケツに細かく折った新聞紙を敷いてつけること、スタンプ中では周りの子ども達がスタンプの代表として前に出ている子どもの顔をみえるように火の方を向いて話すことがよいことなどを学んだ。[中澤1]今回教わった技術は今後野外活動支援に参加させていただく際にも必ず有用になってくるものであるのでしっかり復習しておきたい。

そして二点目のファイヤーキーパーとしての役割については、ファイヤーキーパーがただ単に薪を組んだり、火の相手をしたりすればよいという単なる裏方作業なのではないということを実感した。例えば、事前準備の間に様子が気になって薪を見に来た子ども達やクワガタムシを捕まえて見せに来てくれた子どもと会話したり、[中澤2]スタンプ中に子ども達と挨拶や会話をしたりすることも役割の一つだ。

また、[中澤3]野外活動[中澤4]のメインイベントのひとつであるキャンプファイヤーに薪を組み立てるところから参加し、子ども達の楽しむ様子を間近で見て実際に子ども達とかかわることで子ども達の一生の思い出に深くかかわる仕事であるということの責任の大きさをひしひしと感じた。

今回の野外活動支援ではキャンプファイヤーの始めから終わりまで火の近くでファイヤーキーパーの仕事をさせて頂けた。故に普段以上に火を触り、ファイヤーキーパーとしての経験を重ねることができた。そして実際にファイヤーキーパーの仕事を実践していく中で、ファイヤーキーパーを一人でこなすことは到底厳しいものだと感じたので、今回の経験を忘れずに次回以降の野外活動支援でもファイヤーキーパーの仕事を繰り返して技術や子ども達とのコミュニケーション能力を高め、自分でもファイヤーキーパーの仕事が全うできるようになりたいと思う。

